

集会アピール

3.8 国際女性デーは、1857 年にニューヨークの被服工場で起きた火災で多くの女性たちが亡くなったことを受け、3 月 8 日に女性たちが低賃金・長時間労働に抗議を行ったことが起源であると言われています。その後、1908 年 3 月 8 日には、女性労働者たちが賃金改善と労働時間短縮、そして婦人参政権を求めて「パンとバラ」を掲げ、デモを行いました。

以来、この日は「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳、人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、今も世界各国で様々なイベントや運動が行われています。今年は、国連が 3 月 8 日を国際女性デーと定めてから 50 年目の節目に当たります。

日本は、1985 年の男女雇用機会均等法の制定から、今年で 40 年が経過しました。連合も 1991 年からジェンダー平等に関する取り組みを進めて約 35 年、少しずつ前進してきましたが、皆さんにとって「女性を取り巻く環境が変わった」と実感することはあったでしょうか？

日本は世界的に見てジェンダー平等の取り組みが遅れています。本日の基調講演では、「女性活躍推進」について、これまでの取り組みや変化、今後に向けて必要な行動やめざす姿についてお話いただきました。

好事例紹介では、「女性が活躍できること」はもちろん、すべての人が働きやすい職場環境の整備に向けた労使の取り組みと、働く人目線での政策実現の取り組みについて報告がありました。

本年の 3.8 国際女性デー全国統一行動のテーマは、“一人ひとりのパワーを結集！～社会を変える取り組みの加速へ～”です。自組織だけでは解決できない困りごとは、働く仲間を集めて春季生活闘争や政策実現へとつなげ、私たち自身で社会を変えていく意識を持つことが必要です。

本集会に結集した皆さんの力で、性別・年齢・国籍・障がいの有無・就労形態などにかかわらず、誰もが多様性を認め合い、互いに支え合う、公正な職場・社会を実現していきましょう。

2025 年 3 月 6 日

連合 2025 春季生活闘争 3.8 国際女性デー 全国統一行動 中央集会